



2015年11月6日

各 位

会社名 新田ゼラチン株式会社
代表者名 代表取締役社長 尾形浩一
(コード番号：4977 東証第一部)
問合せ先 取締役専務執行役員 佐々木 恒雄
管理本部長
電話番号 072(949)5381

中期経営計画策定のお知らせ

当社は、2016年3月期から2018年3月期までの3年間を計画期間とする中期経営計画を策定しましたので、お知らせいたします。

1. 中期経営計画策定の背景

当社は2013年5月に「アジア圧倒的No.1」をキーワードに3ヵ年の中期経営計画を策定し、目標達成のため積極的に投資を行ってきました。しかしながら、円安の定着と北米市場環境など前提となる事業環境が大幅に変化したため、2年目をもって中止しました。このような状況の下、2015年4月より新しい経営体制になり、2018年には創業100年を迎えます。当社グループが次の100年に向けさらに飛躍するため、新たに中期経営計画を策定しました。

2. 前提となる市場環境と事業機会

円安定着の事業環境の中で、2015年4月から食品の機能性表示、BSEの規制緩和により、当社にとって日本で新たな市場創造と事業機会の拡大が見込める環境となりました。また、海外では世界経済を牽引するアジアで、食の欧米化が進み、加工食品、健康食品、医薬品の消費が増加し、当社製品の販売拡大が見込まれます。さらに、2015年10月に大筋合意されたTPP（環太平洋経済連携協定）は、モノやサービスの貿易自由化により経済に大きな効果があると期待されています。今後、このような経済圏の中にある当社グループの強みを生かすことにより、大きな成長の機会があると判断しています。

3. スローガン・基本戦略

スローガン：「**新たな視点で次のステージへ**」

前中期経営計画の2年間において、アメリカのペプチド工場及び接着剤技術革新センター（AIC棟）など、事業拡大のため積極的な投資を行い、グローバルな生産体制の拡大をしてきました。新中期経営計画では、整った事業基盤をもとに利益を創出し、これまでの投資を回収する次のステージを目指します。

基本戦略：「**質の追求**」

ステークホルダーの皆様から評価されるよう、製品の品質のみならず、営業、生産、品質管理、研究開発など事業に関わる全ての質の向上を図り、企業価値を高めます。

4. 中期経営計画

(1) 連結業績

	2015年3月期 (実績)	2016年3月期 (予想)	2018年3月期 (目標)
売上高	319億円	381億円	410億円
営業利益	3億円	14億円	20億円
営業利益率	1.2%	3.7%	4.9%
海外売上比率	42.2%	48.0%	50.0%

(注) 2016年3月期以降の為替レートは、1米国ドル=118.0円を前提としております。

(2) 戦略課題

① 高付加価値製品の開発

日本では、人口減少と市場の成熟により、従来製品による「量の拡大」だけでは、競合他社との価格競争に陥り適正な利益を確保することが困難な状況にあります。当社では創業以来、時代の変遷と市場のニーズに合わせた製品を開発し発展してきました。当社のコアであるゼラチン・コラーゲンには無限の可能性があり、これからも他社にない差別化が継続できると考えています。今後、当社がこれまで培ってきた技術を応用し、高い生体調整機能を有するコラーゲンペプチド、iPS細胞など再生医療用のゼラチン・コラーゲン、市場の拡大が予想されるアクティブシニア層向け製品、接着剤事業では、顧客の製造工程の自動化に寄与する高機能樹脂など高付加価値製品の開発を進めます。

② 最適生産・最適販売

当社グループでは日本、北米、インド、中国、ベトナムに生産・販売拠点を有し、北米及びアジアを中心にグローバルに事業を展開しています。各拠点からの輸出入による、関税、輸送コスト及び為替変動の影響を極力是正するため、BSE規制緩和を契機に各拠点で生産した製品は各拠点の地域で販売する「地産地消」の推進を図ります。また、成長市場での販売拡大に対応した生産を進めます。

③ グローバル経営基盤の強化

当社は、1975年にインドに牛骨ゼラチンの原料を求め進出し、その後、当社グループにとって原料調達、牛骨ゼラチンの製造・販売を行なう重要な拠点となっています。2015年4月からインド3社を連結子会社化し、さらに当社グループと一体化を深めていきます。また、経営陣のダイバーシティ化と従業員の人材交流の強化により、海外での事業戦略を確実かつ迅速に行いグループ各社の収益向上を図り、経営基盤の強化を進めます。

(3) 設備投資計画

中期経営計画期間中、総額65億円の設備投資を計画しています。主な設備投資は以下の通りです。

- ・ケーシング事業の設備導入
- ・大阪工場のゼラチン増産設備導入
- ・海外ゼラチン工場の生産効率化設備導入

以上

将来の見通しの記述について

本資料には、当社および当社グループ会社に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは、当社が現在入手している情報に基づく、本資料作成時点における予測等を基礎として記載されています。また、これらの記述のためには、一定の仮定を使用しています。これらの記述または仮定は主観的なものであり、将来不正確であることが判明することや実現しない可能性があります。このような事態の原因となりうる不確実性やリスクは多数あります。これらに関する情報については、決算短信、有価証券報告書、アニュアルレポートなど、当社が公表しました資料の最新のものをご参照下さい。なお、本書における将来情報に関する記述は上記のとおり本資料作成時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。